

2026 年 7 月 27 日

IGKC 関東・永田

2026 年 モンペリエ・ワルシャワ・ラトビア ツアー報告

期間：2026 年 7 月 2 日～7 月 14 日

訪問都市（国）：モンペリエ（フランス）、ワルシャワ（ポーランド）、リガ（ラトビア）

目的：剣道を国際社会に広め、また現地剣士と交流し交剣知愛を深める

メンバー：[団長]曾根孝悦、安達一武、藤原勝(幹事)、上野和雄、小下明人、久保達也、安田由美子、
田川嘉紀、小淵俊江、志知照子、永田敬生(記録)（主催：国際社会人剣道クラブ）
川村先生（モンペリエ）

1. モンペリエ（7/2～6）

乗り換えのヘルシンキ空港で関東組・関西組が合流する予定でしたが、関西空港発のフライトが遅れ予定のパリ行きのフライトに間に合わないアクシデントに初日から見舞われました。関西組は急遽別のフライトを探し、なんとか深夜モンペリエ到着となりました。関東組は、パリ空港で通訳の川村先生と合流しましたが、パリ・モンペリエの TGV で電気系統の故障が発生したためモンペリエ到着は約 2 時間遅れとなり、駅から稽古場に直行。体育館では 60 名ほどの剣士の歓待を受けました。今回の講習はモンペリエ市やオクシタニ地方県協賛の事業として位置づけられており、在マルセイユ日本国総領事北川様、オクシタニ地方県知事代理、Laurent モンペリエ市副市長（守道館のメンバー）、今回のセミナーを主催した守道館館長 Sage 先生、のご挨拶の後、曾根団長から 40 分基本技講習、その後 30 分ほどでしたが早速初日の剣を交わしました。その晩は、モンペリエ市街コメディ広場の屋外レストランで乾杯。今回の南仏セミナー主催の守道館 Saget 先生はじめ守道館の方々とご一緒しました。

二日目は関西組も合流し 11 名で剣道セミナー開始。昨日に続きモンペリエやボルドーなど近郊から約 60 名が参加。開講に当たっては、改めてオクシタニ地方県知事代理からのご挨拶も戴きました。曾根団長から「足腰でしっかり打ち切り、残心までつなげる」をテーマに進めるとの方針が日本人講師陣に伝えられ、最初に素振りの講習を行った後、上級組：曾根先生、中級組：安達先生、初級組：安田先生・小淵先生、に分かれて基本技を稽古。最後に日本人の元立ち稽古と 4 時間みっちり実施しました。夕食までの時間は、モンペリエ日本人会代表のあゆみ様にモンペリエ市街観光を戴いたのち、オリーブ畑の中にある郊外の野外レストランでバーベキュー。フランスの食事は、8 時ごろから始まり 12 時頃まで続くのが普通とのこと。星空の下夜遅くまで歓談を楽しみました。

翌日のセミナーでは、素振りの後、剣道形講習。日本人による剣道形演武（安達先生・永田）後昨日の組分けで剣道形や応じ技等の基本稽古を行い、最後に日本人の元立ち稽古 50 分で 4 時間の講習を終え充実した二日間のセミナーを終了しました。稽古後は、9 世紀初頭創設の修道院を抱えた、スペイン・巡礼の道に連なる山村の「サン・ギレム・ル・デゼール」(世界遺産)に立ち寄り、その後、ブドウ畑に囲まれたワイナリーで夕食。エスカルゴにワインとフランス料理を楽しみながら、夜が更けました。モンペリエに日本人剣士の団体が訪問するのは 14 年ぶりとのこと。守道館から頂いた「友愛」と書かれた T シャツを全員がつけ一体感を味わいました。

最終日はフライトまでの待ち時間に地中海へ案内いただきました。さすが地中海、海の色が違います。水は澄んでいて冷たい。砂浜にはトップレスの女性もいて目のやり場に困りましたが、これもフランスですね。モンペリエは、年間 300 日晴天といわれる土地で、本来は海洋性のさらっとした気持ちよい気候ですが、こちらも欧州熱波の影響を受けて連日 35 度越え。梅雨明け前の日本から移動してきた身には暑さがこたえました。モンペリエ訪問は、数年前、Laurant 先生が東京新宿の二刀流セミナーに出席した際 IGKC の向後

先生と会い、14年ぶりの日本人剣士のモンペリエ訪問を熱望された経緯があります。向後先生は諸般の事情で欠席になりましたが、Saget先生、Laurent先生はじめ守道館の方々のご尽力で企画が実現し、滞在中も手厚いおもてなしを戴きました。ここに感謝申し上げます。

KENDOC : [SHUDOKAN - Kendoc ミーティング](#) [The Story of Kendoc Meeting 2026](#)

2. [ワルシャワ \(7/6～9\)](#)

ワルシャワ空港には深夜到着し、ワルシャワ剣連のBozak先生他のお出迎えでホテルへ。こちらは一転して雨交じりの天候で、気温は20度程度。翌日は、雨交じりの中、晩の稽古までの時間をトラムやバスを使って王宮や旧市街を観光。ワルシャワの街は第二次大戦後の廃墟から元通りに再建されたものとのこと。また、大国に翻弄された歴史を忘れないようにと、戦争にまつわる博物館やユダヤ人博物館など多くあります。街中散策では、ポーランド料理のスープやピエロギがおいしかったです。スイーツも有名と聞いており、ケーキを頼むと日本の4倍はあろうか巨大なケーキが出てきましたが、おいしかったです。

剣道セミナーは19時開始。スウェーデンやリトアニアからも参加があり50名ほどの剣士が集まりました。曽根先生から、切返し、基本打ち（正確に正しい姿勢）、連続技、応じ技、の模範を示しながら講習を行いました。次いで日本人元立ちの指導稽古でポーランド剣士と剣を交えました。セミナー後は第2道場で現地の剣士と交剣知愛。ウォッカも出てきて大いに盛り上がり、ホテルに戻ったのはまたも深夜。

二日目は晴天になったものの風が強く若干肌寒く時折小雨もぱらつきます。稽古までの時間を三々五々で街歩き。博物館に行った人が多かったようです。セミナーは19時から開始し、前半は練度別に3組に分かれて基本技から応じ技までの稽古。後半は日本人の元立ち稽古で、最後に掛け稽古を行いました。少しきつめとの指示で短めに多くの人のお相手を務めました、こちらでは激しい掛け稽古はあまりやらないのか、ワルシャワ剣士には新鮮な体験だったようで、息をきらせながらも目を輝かせて喜ばれていました。22時ホテルに戻り、各自軽食後翌早朝の移動に向けて準備です。

3. [ラトビア \(7/9～7/13\)](#)

リガ空港では、おなじみKindzulis先生のお出迎え。空は青天、気温は15～6度の涼しさ。私は今回が2回目でしたが、家に帰ってきたような気がします。昼食会場では、昨年お会いした日本大使館の方々に加えラトビア剣士が多数参加し、曽根先生の範士受称記念のサプライズパーティ。大きなケーキが準備され曽根先生が入刀。大いに盛り上がりました。ホテルチェックイン後、ラトビアの一般市民を対象とした、書道・茶道のセミナー（志知先生、藤原先生、上野先生、田川先生）に加えて、弓道（Kindzulis先生）、居合（久保先生）、剣道形（安達先生・永田）、剣道打込（安田先生・小淵先生）のデモンストレーションが行われました。これが少しでもラトビアの剣道人口増加の助けになることを願います。

翌日は、ハンザ同盟の拠点を発祥とするリガ旧市街を観光。晩は、ウェルカム稽古。ラトビアだけでなく、翌日の大会に来られた各国の選手らと竹刀を交わしました。

三日目。湯村杯（リガカップ）には、9ヶ国（*1）から60名の選手が参加。審判、監督を含めると80名を超える国際大会です。開会式には、吉田在ラトビア日本大使やリガ体育協会会長他が出席。吉田大使は最後まで観戦され、日本大使館のホームページにも記事が載りました（*2）。初日は個人戦。日本人は審判として参加します。年少/年長の子供の部、女子、男子と14時半まで熱戦が繰り広げられました。試合の質は結構高く、女子決勝は、リトアニア対スペインでスペインが優勝、男子決勝はポーランド対イスラエルで、ポーランドで幹事をいただいたBozak選手が見事な面で優勝されました。体を使ったまっすぐの正統派の剣道でした。終了後は合同稽古。夜は旧市街にある地下レストランでパーティ。隣り合った

スウェーデン、スペイン、ラトビア、イギリスの方々と盛り上がりました。地元のハニービールもおいしかったです。

四日目は、最初に欧州剣連による 5 段までの昇段試験が実施され、日本人は別室で待機。その後、女子団体戦と混合団体戦。女子エストニアチームでは 1 名不足し日本人が急遽参加しましたが、双方にとって良い思い出になりました。女子団体戦の優勝は開催国のラトビアチーム、混合団体戦はポーランドチーム同士の決勝でした。曾根団長からは、「リガ訪問は 13 年目になるが、当時子供だった子が今は立派な強い剣士になっているのは感慨深い」との感想が披露されました。特に女子ラトビアチームの上段剣士は、今年が上段を取って 2 年目でしたが、昨年よりも更に上達していて目を見張られました。来年の世界選手権が楽しみです。ポーランド男子は、先の欧州大会で 3 位になったこともある実力者揃いで、スピードがあり打突も強く、見ごたえのある好試合が続きました。昼食後は合同稽古。50 分ほどでしたが、欧州最後の稽古を、スウェーデン、ラトビア、イギリス、イスラエル他と各国の剣士と楽しみました。夜は、日本大使館参事官のご自宅にご招待され、当地事情などをお聞きました。地元のお酒や料理に加え、メには大使館シェフによるチラシずしにプリンを戴きました。久しぶりの日本食がおいしかったです。

*1 参加国：ラトビア、リトアニア、エストニア、ポーランド、スウェーデン、イギリス、スペイン、イスラエル、韓国

*2 日本大使館 HP：[吉田大使は「Riga Cup & Yumura Cup 2026」を観戦しました | 在ラトビア日本国大使館](#)

4. 帰国

最終日午前中は、近くのスーパーに買い物に出る人、帰国に向けた荷物づくりに勤しむ人それぞれ。頂いたお土産や買い込んだお菓子、ワインなどでスーツケースはパンパン。飛行機の規程重量内に収めるべく頭を絞ります。リガ空港では何とか全員無事チェックインできて手荷物検査場に向かいますが、ここでお見送りに来ていただいた方々とお別れ、皆さん見えなくなるまで手を振っていただきました。次のヘルシンキ空港で羽田便と関西空港便とに分かれ、それぞれ真夏の日本に向かいました。

今回のツアーを通じて、改めて国際社会人剣道クラブの指導に対する海外剣士の期待と関心の高さを実感しました。各地の講習会では、受講者が一言も聞き漏らすまいという真剣な姿勢で臨み、指導された内容をすぐに実践しようとする熱意が見られました。そのため、私たち指導者側も大いに刺激を受け、充実した時間を共有することができました。また、現地指導者からは、「多くの日本人指導者が来てくれることで、初心者から上級者まで、また子供から大人まで幅広い層が直接指導を受けられる」、「参加者全員が実際に日本人剣士と剣を交えることができる」といった声が聞かれ、日本からの訪問が大変歓迎されていることを強く感じました。今後ますます多くの方が海外剣道ツアーに参加され、国や言葉の違いを超えて国際交流を楽しんでいただければと思います。

【モンペリエ】







【ワルシャワ】





【リガ】





Yumura Cup 2026

HITteki 匹敵

Matches Schedule

Refresh

Category: 10-13 Individual

Shiaijo A

Post 1	
Nikolass POPOVS	Kostas KARALIUNAS
Davids KSENDZOVIS	Kostas KARALIUNAS
Davids KSENDZOVIS	Aleksandrs PORTNOVS
Nikolass POPOVS	Aleksandrs PORTNOVS
Nikolass POPOVS	Davids KSENDZOVIS
Kostas KARALIUNAS	Aleksandrs PORTNOVS







以上